



コミュニス

黒東小学校 校長 内山 真之

新年明けましておめでとうございます。年末年始をご家族と過ごし、子供たちもエネルギーをたっぷり充電できたようで、表情も希望に満ち溢れています。さあ、令和3年度、最後の3学期を始めましょう。

さて、これからの時代を生きる子供たちに、コミュニケーション力といった非認知能力の育成が叫ばれてから久しくなりました。しかし、コロナ禍では、人との触れ合いも制限されていますし、我慢は、もうしばらく続きそうです。

黒東小の子供たちは、「あいさつ」をよく褒められます。新年の始めにあたり、挨拶について考えてみたいと思い、次のよう内容を簡単にして始業式で話しました。

本校には、ALT（外国語指導助手）の先生が2人、英語専科（日本人）の先生が1人います。この3名の先生に共通することがあります。それは、「挨拶がすごい」のです。乗っている車から挨拶。車を降りてからも「おはようございます」。玄関前に来て、またまた挨拶。その後、廊下でまた会っても、「おはようございます」。出会って無言で通られることはありません。「お疲れ様です」「ハロー！」に、笑顔がもれなくついてきます。さっき挨拶したから、終わりではないのです。しかも、必ず私の目を見て挨拶され、ロックオンされたかのように目線が外れないのです。「あなたを気にしていますよ」という気持ちが、しっかりと伝わってきます。

英語専科の先生に聞いてみました。「コミュニケーションで大事なことは何ですか？」「アイコンタクトです」と即答されます。それが大事であることは、先生のいつもの姿が物語っています。

ALTの先生にもいつも挨拶されると、こちらが話しかけてもいいだろうという安心が生まれます。話しかけてみると、真剣に考えながら、笑顔で目を見て応えてくれます。3人の先生の姿は、子供たちもあこがれるコミュニケーションの一つの見本となっています。

しかし、その姿を見ながら自省もしています。はたして、私たちは、子供が話しかけやすい先生、相談できる先生であるのだろうか、子供たちとのコミュニケーションは十分なのだろうか。

ところで、「コミュニケーション」の語源は、ラテン語の「コミュニス(共有する)」だといいます。コミュニケーションは、相手と「共有すること」のようです。ですから、自分のことをただ主張するのは、そうではないのですね。「言葉と表情のキャッチボール」という感じでしょうか。相手との「会話」にコミュニケーションが成立している時は、「対話」になると考えています。

いいコミュニケーションができれば、自分を見つめ、お互いを高め合うことができます。これは、私たちが学校に整えたい、学びの大きな環境に他ならないのです。人間関係づくりともいえます。その入り口であって、学びの場のベースとなるのが、実は単純に見える「あいさつ」のようです。

子供たちが、安心して自分を表出できる学級づくりを願い、私たちも研鑽を続けてまいります。

「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」を皆様と共有しながら、新しい年も職員一同、子供たち一人一人を見つめ育て、ご家庭、地域と共に伴走していきたいと思ひます。

本年もよろしくお願いいたします。



始業式



冬休みも終わり、学校に賑やかな子供たちの声が響いています。さあ、3学期が始まりました。

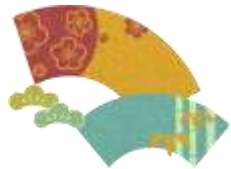
3学期始業式は、寒い日となりましたが、校長先生の話静静地に聞きながら、子供たち一人一人が、冬休み中に立てた自分の今年の目標を改めて思い起こしたのではないのでしょうか。

各学年の代表者が新年の誓いを発表しました。子供たちの夢の実現を願い、子供たちを支援していきたいと思います。保護者の皆様、ご支援ご協力をお願いいたします。



書き初め会

新年恒例の書き初め会を始業式の後、2、3限に行いました。冬休み中に、たくさん練習をしたことでしょう。慣れた手つきで自信に溢れた表情の子もいました。どの学年も、落ち着いた雰囲気の中、筆に思いを込め、真剣な面持ちで取り組んでいました。



1年「かるた」



2年「竹うま」



3年「思いやり」



4年「光る立山」



5年「初日の海」



6年「心に太陽」